



7/24 令和6年度産 中晩柑出荷反省会

7月24日、紀州選果場にて中晩柑出荷反省会が開催され、市場10社と紀州柑橘部会役員、支部役員計21人が出席しました。JA担当者による令和6年度産中晩柑の販売結果についての報告、各市場からの情勢報告の後、部会員から市場担当者への質問の時間が設けられました。部会員からは、中晩柑の単価に関する質問や要望が出されるなど、活発な意見交換が行われました。JA担当者は栽培状況を踏まえつつ、安定供給に努めていきたいとの意向を示しました。

NEWS& TOPICS

7/25 令和6年度産 ミニトマト部会反省会

7月25日、印南町公民館にてミニトマト部会反省会が開催され、市場4社、部会員約50人が出席しました。JA担当者による令和6年度産の販売実績報告、各市場による「赤糖房」、「優糖星」、「王糖姫」のブランドごとの販売に関する報告がありました。その後、意見交換が行われ、部会員から市場担当者に対して他産地の生産動向についてなど質問がありました。紀州地域本部は今回挙がった意見や要望に応えるべく、今後も高品質出荷、産地の発展に努めてまいります。



3講座 合同開講式を開催！

7月25日、がいなポートにて第10期女性大学ヴィナス、第8期女性倶楽部パール、第8期男性講座『粋』くらし道場の合同開講式を開催。今年は総勢36人が受講します。

開講にあたり阪本地域本部長より「学びと交流の場を通じて受講生同士の繋がりを深めていただき、地域の力になれることを心より願っています」と挨拶がありました。



第1回講座 特別講演

『老いを生きるということ』

開講式の後、第1回講座として、日高町在住の水主千鶴子さんを講師にお迎えし、『老いを生きるということ』と題した講演が行われました。講演では、100歳以上の高齢者が大幅に増加している現状を踏まえ、年齢を感じさせない、年齢にとらわれない「エイジレス社会」の必要性について詳しく語られました。受講生はこれからの生き方について深く共感し、いずれ直面する高齢者としての生き方を改めて考える貴重な機会となりました。



第2回講座

女性大学“Venus” ヴィナス

漁師さんに学ぶ ほんまもん地引網体験

8月5日、由良町の大引浜にて、地引網体験を実施しました。地引網とはあらかじめ仕掛けておいた大きな網を手で引いて魚を獲る伝統的な漁法です。想像以上に網が重たく引き上げるのに苦戦しましたが、地元漁師さんの指導のもと、「いち、にー！いち、にー！」と声を合わせながら皆で網を引き、たくさんの魚を獲ることができました。その後、「和洋食堂しらしょう」にて「紀州の環」の中さんに教えていただきながら、魚のフライを使った巻き寿司作りにも挑戦しました。漁師さんからは、魚や漁に関する様々なお話も伺うことができ、参加者にとって大変貴重な体験となりました。



7/31 おやこの食育教室

7月31日、日高町にて「おやこの食育教室」が開催されました。

当日は親子6組(14人)が参加し、町内の生産者にご協力いただき、オクラの収穫体験を行いました。JA職員による説明のもと実施し、子どもたちは「大きなオクラを取りたい!」と夢中になって収穫に取り組んでいました。

その後、JA職員による野菜に関するクイズも行い、親子で相談しながら答えるなど楽しみながら野菜に関する理解を深めていただきました。最後には、女性会と日高町食生活改善推進協議会による調理実習を実施。JAが食材提供を行い、地場産野菜を使用した栄養バランスの取れたご飯を作りました。

同様の取り組みは30日に美浜町でも実施され、ミニトマトの収穫を体験しました。



8/6 川辺ちゃぐりんフェスタ

8月6日、農産物加工施設にて女性会川辺ブロックによる夏休み期間の子ども向けイベント『川辺ちゃぐりんフェスタ』が開催されました。

児童7人が参加し、野菜に関するクイズを楽しんだ他、オクラ、ミニトマト、ナス、トウモロコシなど夏野菜を盛り合わせたキーマカレーの調理実習を行いました。女性会員のサポートのもと一緒に作り上げ、試食では「美味しい!」との声が溢れるなど充実した一日となりました。



Aコープ『子ども店長』がお仕事に挑戦!

Aコープ5店舗(ゆら店、ひだか店、かわべ店、いなみ店、みなべ店)は夏休み期間を利用し、各店舗近隣に住む小学校3~6年生を対象に『子ども店長』を募集し、今年は5人を受け入れました。

入口でお客様に「いらっしゃいませ!」と元気に挨拶し買い物かごを手渡しした他、レジ打ち、商品の陳列、店内アナウンスなどにも取り組みました。参加した子どもたちは「難しい仕事もあったけど、すべて楽しかったです!」などと笑顔で話してくれました。

紀州地域本部ではこのような取り組みを通じ、地域住民との繋がり強化、地域に密着した店舗づくりを目指しています。



8/5・8/7 みなべいなみ豆部会 勉強会

8月5日にアグリセンターみなべにてウスイエンドウ、8月7日に印南町公民館にてキヌサヤの勉強会を実施し、部会員計35人が参加しました。今回の勉強会ではJA職員より品種ごとの特徴や栽培管理の違いについて詳しく説明した他、害虫に対する注意を呼びかけました。参加者からは高温対策や防除、追肥に関する質問をはじめ多くの質問をいただくなど、今年度の高品質栽培に向けた有意義な時間となりました。



「YN26」の果実分析を実施

紀州選果場では9月上旬の出荷スタートを前に、8月上旬と下旬の計2回、極早生みかん「YN26」の果実分析を実施しました。

1回目の分析では、管内約120園地からサンプルが集まり、果汁を絞って専用の分析機で糖度と酸度を分析しました。分析結果について、営農指導員は「今年産は雨が少なかった影響で、糖度が高くなっています。美味しく仕上がっていますので、是非食べてみてください」と話します。

8/19 湯川支店 上棟式を実施！

8月19日、湯川支店の骨組みが無事に完成したことを祝い上棟式を実施しました。芝副組合長から工事関係者への感謝と今後の工事の安全を願うとともに「立派な湯川支店が無事に完成させていただきたい」と挨拶があり、関係者出席のものと儀式を行いました。



7/25 農機総合展示会 開催!!

7月25日、県農紀南農機資材事務所にて農機総合展示会を開催しました。農機具、鳥獣害資材、生活資材を扱う取引業者の協力を得ての開催となり、展示会特別価格での商品販売を行いました。平日ながら約340人にご来場いただき大盛況となりました。



フレッシュマート特産品直売所 からのお知らせ



YN26 (紀のゆらら)

9月中旬頃より販売開始!

YN26 (紀のゆらら) が
入荷しました。
酸味の中に甘みも
感じられ爽やかな味わい
になっています!

ゆら早生を品種改良した極早
生みかんで、皮が薄く秋らし
い爽やかな味わいが特徴。

小菊、輪菊、ゆり、リンドウなど花き類

仏花としてよく使われる花き類。



販売中!

秋彼岸に向けて
花き類たくさん
入荷しています!

2025年 9月号より 定価を改定します

- ・諸般の状況を鑑み、定価を改定いたします。
- ・9月号より毎号の価格を統一いたします。

家の光
□ IE no HIKARI

8月号までの定価(税込)
普通月号……………629円
付録月号(1・4・5・7・9月号)……922円
付録月号(家計簿付き12月号)……1,027円

9月号からの新定価(税込)……………900円

地上

8月号までの定価(税込)
普通月号……………618円
付録月号(4・11月号)……………680円

9月号からの新定価(税込)……………750円

ちゃぐりん

8月号までの定価(税込)
普通月号……………492円
付録月号(1・4・8月号)……………576円

9月号からの新定価(税込)……………600円

※「家の光」は毎号別冊付録が付きます。

※「ちゃぐりん」は2025年8月号、2026年1月号、4月号に別冊付録が付きます。

紀州地域本部 地域運営委員の ご紹介

紀州地域本部の地域運営委員会
を設置しました。各区域の運営委
員の皆さんを紹介いたします。

御坊市・日高川町・田辺市龍神村		山野	茂（委員長）	松本	峰生	阪田	守	小林	孝子	植山	功	小森	要	竹内みえ子	古田	忠良	吉田	博	森口	裕隆	安達	克典	山田	裕司	美浜町・日高町・由良町		若野	博一	崎	千代美	稲葉	茂幸	小田	義文	稲葉	真幸	川口	拓洋	野田	秀樹	印南町・みなべ町		久堀	達也（副委員長）	出口	征子	塩路	久夫	伏村	久	山西	茂	中内	功	池下	仁美	碓	崇	五島	敦	井口	宗考	堀	泰明	平野	博文	青年部		女性会	西田	成貴	松島	恵子	上田	明広	大谷	知美
-----------------	--	----	--------	----	----	----	---	----	----	----	---	----	---	-------	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	-------------	--	----	----	---	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----------	--	----	----------	----	----	----	----	----	---	----	---	----	---	----	----	---	---	----	---	----	----	---	----	----	----	-----	--	-----	----	----	----	----	----	----	----	----



うめ

梅園管理について

●元肥(9月)

来年の貯蔵養分を蓄積するための重要な時期です。この時期に施肥された養分は、主に根に移行し、翌年の果実・葉・新梢・根などに利用されます。

●クビアカツヤカミキリ対策

産地を守るためには、早期発見・早期対策が重要ですので、怪しいフラス・幼虫・成虫を発見した場合は、JA宮農販売センターに必ずご連絡ください。

●モモヒメヨコバイ対策

収穫終了後から落葉時期まで発生し、葉の吸汁により黄化・早期落葉を引き起こします。

貯蔵養分の減少によって、次年度の樹勢や開花・新芽・果実に悪影響が出る恐れがあります。

【薬剤散布】

●アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍／収穫7日前まで／2回以内

●モスヒラン顆粒水溶剤 2,000倍／収穫前日まで／3回以内

●干ばつ対策

梅は浅根性であり、細根の約80%

は地表20cm以内に分布します。高温・乾燥が続くと細根が枯れ、樹勢が低下します。

【対策】

●敷き草・堆肥による水分蒸散の防止
●灌水が可能な園では早めの実施(朝方の灌水を推奨)

●乾燥が続く場合は、週1回、1樹当たり100L収穫後から開花前まで但し、収穫60日前までの灌水を行ってください。

●緑肥作物の播種(9月下旬～10月)

土壌の流亡防止、有機物補給、敷き草としての利用、土壌乾燥防止、寒暖差の緩和などに効果があります。推奨品種については、各営農指導員にお問い合わせください。

●強風・台風対策

●防風樹や防風ネットの設置
●幼木は支柱で固定
●倒伏した場合は、根を傷つけず土をかぶせて仮固定し、休眠期に立て直す

果樹柑橘



●極早生みかんの収穫前の腐敗防止剤散布

収穫前日まで下記に下記の腐敗防止剤を混用散布してください。また、効果が低下してきた場合は使用回数制限内で再散布をおこなってください。ベフラン液剤25,000倍(収穫前日まで／3回以内)

ベンレート水和剤 4,000倍(収穫前

日まで／4回以内)

※ベフラン液剤25は登録失効となりますので、今年10月31日以降の使用ができません。つきましては、代わりにベルフト水和剤2,000倍(収穫前日まで／3回以内)を使用してください。

●病害虫防除

秋雨の降雨状況により黒点病を防除する場合はナティーボフロアブル1,500倍(収穫前日まで／3回以内)を散布してください。

また、台風等で強風が吹いた場合は、カメムシやかいよう病が発生する場合があります。カメムシ発生園ではスタークル/アルバリン顆粒水溶剤2,000倍(収穫前日まで／3回以内)を散布してください。

かいよう病についてはアピオンE 1,000倍加用・Cボルドー66D 80倍を散布すると同時に罹病枝や葉の剪除にも努めてください。(ボルドーの高温多湿時の散布に注意)

●仕上げ摘果

9月は早生、中生について仕上げ摘果の時期となります。

果実の成り具合により摘果程度は異なりますが小玉果、奇形果、傷果、病害虫被害果等を摘果し最終的にすべての果実が下を向いているのが理想です。

なお、着果量の少ない樹では大玉果になっても摘果せず秋芽の発生がしなくなる10月中旬以降まで遅らせてください。

●中晩柑の秋肥施用

果実肥大、貯蔵性向上、樹勢維持回復のため柑橘施肥基準を参考に施肥してください。

●台風対策

9月は台風が多い季節ですので樹へ支柱や誘引、防風ネットの点検、園地の排水対策、マルチシートの重石などを実施し万全に備えてください。

●浮き皮軽減にフィガロン乳剤の散布

着果の少ない樹は浮き皮になりやすいためフィガロン乳剤を第1回目は蛭尻期(着色初期)、第2回目は蛭尻期の約2週間後、倍数は3,000倍で立木全面散布が効果的です。液肥ヒーロー1,000倍を混用すると樹勢を維持します。

水稻



●雑草対策

ホタルイやクログワイ、キシウウスズメノヒエ等の難防除雑草が多い水田では、稲刈り後(切りワラがあると思われる)ので雑草がワラの上に発生してからにラウンドアップマックスロード又は、タッチダウンIQを散布して、次年度対策に努めましょう。

ただし、畦畔や法面への散布は崩れる恐れがあるため避けてください。

●イネ蒔き枯病・鳥獣害対策

稲刈り後の株から出てくる穂をそのままの状態では放置しておくと、蒔き枯病(ウィルス病)の発生源となる

ります。また、スズメやイノシシ、サル等に餌を与えることとなり鳥獣害被害が拡大することがあります。イネ・雑穀枯病及び鳥獣害対策のために、できるだけ収穫後は、耕耘するようにしてください。

野菜



ミニトマト類

●黄化葉巻対策

コナジラミの予防対策が最も重要となります。ハウス開口部の防虫ネットに破損している部分がないか再確認するとともに、出入り口ドア開閉の際も十分に注意してください。

●薬剤散布

定植時の植穴粒剤施用と共に定期的な薬剤散布を行ってください。

使用薬剤選択に当たっては、マルハナバチ影響日数を確認してください。

●草勢管理

各節から発生する側枝を上手に利用し、草勢管理を行ってください。

側枝除去のタイミングは、草勢、気候等を考慮してください。

大きな側枝を一気に除去すると根痛みの原因となり、その後の生育に悪影響が出る可能性があります。

●交配作業

草勢を安定化させる為に、1〜3花房頃まではトマトーンによる交配作業を実施してください。高温期のトマトーンは短い間隔、薄い倍

数(150倍程度)でたっぷり花にかけ、確実に結実させてください。

●光の確保

高温対策として使用している遮光(熱)ネットは日々の天候に合わせて開閉し、しっかりとした軸や葉に仕上げるよう努めてください。

促成ピーマン・ナス

栽培期間中の生育を良くするためには、定植後の水分管理が重要になってきます。定植後の灌水を多く行くと、根の張りが悪く、上根状態になってしまい、草勢の維持管理が難しくなります。畝立て前までに必ず雨に打たせるか十分な灌水を行うことで、土壌水分量を確保しましょう。尚、定植後は必要な水分のみの灌水にしてください。定植初期は、根が活着するまでの7〜10日間 hands 灌水を行い、水の量を最小限にするなど、根が底に入るように管理を行ってください。

●病害虫防除

【定植前、定植時】

定植前に薬剤散布を行い、発生予防に努めましょう。粘着トラップの設置も効果的です。促成ピーマンについては、天敵の放飼を予定している圃場は、薬剤の影響日数を考慮し防除散布してください(影響日数30日以上薬剤は使用しないでください)。詳しくは営農指導員までお問い合わせください。

キュウリ

9月上旬から定植が始まりました。定植後活着するまでは、株回りの灌水を行い、5〜6枚位の活着を目指してください。完全に活着した後、成長点が1〜1.5枚展開してから徐々に水分を控えるようにしましょう。

主枝は15〜16節でピンチし、雌花開花後に少量灌水し肥大を促してください。

下位の4〜5節(30cm)側枝は早めに摘み取り整理し、孫枝が必要に応じて2〜3本放任し草勢を維持してください。

摘葉は早い時期から行い、混み合っている部位から摘み取るようにしましょう。

ブロッコリー

●根こぶ病対策

根こぶ病対策で、オラクル粉剤(全面土壌混和30kg/10a)を施用してください。また、根こぶ病の多発している圃場では、連作を控えてください。

●欠乏症対策

苦土欠乏症が発生しても、ひどい欠乏症以外は収穫や収量に大きな影響はありませんが、毎年苦土欠乏症が発生し生育に影響が出ている場合には、硫酸マグネシウム(1袋/10a)を施用してください。「改良緑炎」が特に発生しやすいです。

ホウ素欠乏症が発生した園地につきましては、FTEを10a当たり4kg施肥してください。

「おはよう」についてはホウ素欠乏症が非常に発生しやすいので、必ずFTEを施用してください。

●追肥

追肥は2回行います。

【1回目】

生育促進を目的に、活着後に施用してください。

【2回目】

花雷の肥大促進を目的に、頂花雷が見えだした頃に施用してください。

*追肥例(1回目・2回目)
・NK化成40kg(10a当たり)

●土寄せ(第一回の追肥時に除草を兼ねて土寄せを行います)

土寄せの目的

- ①倒伏を防止します。
- ②草勢を旺盛にします。
- ③土壌の物理性を改善します。
- ④株元に肥料分を与えます。

●排水対策

降雨による根ぐされ防止のため高畦にし、排水対策を徹底してください。(ただし乾燥しやすい圃場等では、灌水チューブ等を設置してください)

●防除

病気では黒腐病や軟腐病、べと病、また害虫ではアオムシ、ヨトウムシ、コナガ等の適期防除に努めましょう。

豆類

●台風対策

- ①誘引している物については、速やかに畝上にネットごと倒し、防風ネットで抑え込んでください。
- ②若芽が伸長中又は、発芽始めの段階では、小さい弓などでトンネルを作り、防風ネットで抑え込んでください。

●台風通過後

- ①冠水、浸水の被害を受けた圃場は速やかに排水を行ってください。
- ②冠水した作物に泥等が付着している場合や、塩害が心配される場合は、登録薬剤により、作物に付着した泥を洗い流すとともに、液肥の葉面散布等を行い、生育への悪影響を最小限に留めるように努めてください。
- ③畝が冠水した場合等は、畝間の耕耘やホーク等を使用し、根腐み防止に努めてください。(薄い液肥の灌注などもご検討ください。)

●春取りウスイ

播種は10月中旬～下旬
畝幅 150cm～160cm
株間 30cm～35cm
1穴4～5粒、播種してください。
高畝にし、通気・排水を良くしましょう。

●ハウスウスイ電照栽培

ウスイが3節になると電照を開始し、8節まで行いましょう。(基本は、日没から翌朝まで) 但し、草勢が弱り過ぎないように電照時間を調整して

ください。また、基本的にハウスウスイは、12月まで発生する側枝は除去し整枝してください。

●ハウスキヌサヤ

草勢調整は、生長点付近の花の状況を確認し管理を行いましょう。また、蔓数20～25本/m程度になるよう整枝してください。

●病害虫防除

ヨトウムシ類

今年度も発生が多いと予想されており、一部地域では既に発生が確認されています。

発生が確認された場合は早めに防除を行ってください。

さび病

ハウスウスイやハウスキヌサヤで見られるさび病は、11月には胞子が飛散していると推定されます。その為、薬剤散布は発生前の10月下旬頃から行ってください。効果のある薬剤についてはお近くの営農指導員までお問い合わせください。

にんにく

発芽後、葉が展開するまでに土寄せを実施し、覆土を10cm以上行ってください。

除草剤は、雑草が発生するまでに行い、土壌水分が十分ある状態で散布してください。

マルチ被覆については、除草剤を散布してから20～30日経過してから被覆してください。(※薬害のおそれがあるため)

また、遅くとも11月末までに被覆をしてください。

ゴーゴーサン乳剤

使用量 300～500ml/10a
散布液量 70～100ℓ

植付後(雑草発生前) 但し、収穫60日前まで/1回

花き類全般



栽培初期の灌水、ハウス管理の徹底を心掛け、今後の採花に向けて健全な株作りを行ってください。近年9月の気温が高く、定植初期に高温の環境下で生育することで、株枯れや高温障害が起こる可能性があります。ですので遮光カーテンの利用や換気対策を十分に行ってください。

スターチス

株作りのための灌水管理や品種特性に応じた芽の整理を行ってください。草勢の弱い品種は、適宜、芽の整理を行うことで抽苔にかかるストレスを減らし、根張り、株の充実を図ってください。一方で草勢の強い品種の場合芽の整理を行いすぎることと栄養成長に傾いてしまう場合がありますのでご注意ください。また、病害虫防除については褐紋・褐斑病の予防防除に努め、アブラムシ類、ヨトウムシ類の害虫の発生にも注意し、初期防除に努めてください。

カスミ草

定植直後は十分な灌水や換気を行い、生育ステージ、採花時期に応じた管理を行ってください。電照を行う場合、日照時間+電照時間が16時間程度を目安として時間を調整し行ってください。開花時期の電照は花首の伸長につながりますので注意してください。

年内採花分…開花期は電照を控えてください。

年明け採花分…花芽が30cm程になれば灌水を控え、電照については条件に応じて消灯してください。

